オレにも言わせろ！

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

Vol.30

豊かにならない理由を国に求めて何になる？



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

金髪・ブルーアイではなく、農業を恋しく思ったバカンス

2カ月続けてコラムを投稿したが、今年の冬も米国に行ってきた。米国での3週間の始まりはLAに行き1週間自分の為にバカンスを過ごす予定だった。到着したLAは前日から雨が降り続け、毎年行く私も初めての悪天候を経験するバカンスとなった。考えて見れば北海道の一部の生産者は本州の多くの生産者に比べて贅沢なことをしているのかもしれませんね。春から初冬まで真剣に働き、そのご褒美で優雅に勉強かたがたバカンスに行けるのですから。

正直申し上げて「消費者がどうだ」「顔が見える農業」なんてことを正々堂々と発言できる方達は、所属している組織の援助で国外に出ることはできても**自腹でバカンス**は無理でしょうね。たとえ行けたとしても中国かベトナムあたりですか？　中国語もできないで中国に行く、ベトナム語もできないのにベトナムに行くの？　そして帰国したら「あー良かった」なんて言うのでしょうね。確かに観光目的であれば、言葉は通じなくても楽しい思い出は作れそうですが、勉強のために海外に出かける生産者っているんでしょうか？　あっ失礼、元々勉強のために海外に出かける生産者はいませんでした。北海道の4カ月間、雪に埋もれ、パチンコや肝硬変予備軍になるために酒を飲んで過ごす生産者の行為は**国税庁の利益**になっても、生産者自らの利益になるの？　また多くの若者が冬期間アルバイトで高速道路、飛行場、鉄道の除雪作業で得られる60万円の金額と、米国で1週間勉強することをなぜ比較しないのか。後者は自分の農業人生を変えることになるのに。それを知らないのは〝**日本かぶれ野郎**〟というしかない。

農業は基本的には自営業なので、自分の考えや個性を出しても自由だと思われているし、実際そう振る舞っている生産者がほとんどだ。しかし結果ははっきりと違う。20年ほど前に黒柳徹子さんがご自分の番組『徹子の部屋』で、ある有名な作曲家に「どうしていつもヒット曲を作れるのですか？」と聞いた。答えは意外なものだった。「ヒットする局のビートやリズムは決まっていますから」と言ったのだ。つまりそれさえ用いれば、後はどんな作曲家でも簡単にヒット曲は作れるらしい。ところが多くの作曲家は独自の色や新しいジャンルを作ることに燃えていて、残念ながら現実は簡単に視聴者には受け入れられない曲になってしまうそうだ。

このようなことも言っていた。「あいつまた、ヒット曲ばかりつくりやがって！」。つまり楽に稼げる

ことは誰でもできるのに、あいつは独自の自分の曲なんてないじゃないか、という意味らしい。だから彼は仲間内からは尊敬されないとも言っていた。

さあ、組織のお金で海外に行く生産者のみなさんでもそろそろお気づきでしょう。

大豆、麦を作るのにそれほど高度なテクニックは必要ないのです。決まったことを確実に行なえば、私程度のことは誰にでもできる（はず）。が、現実はそうでもない。良い（？）例が「有機栽培の大豆、麦栽培を目指す！」なんてことを言いだすハンカクサイ連中がいる。つまり有機栽培は技術が確立されていないので、**各自生産者の考え方**で農産物を作ることになる。その結果は……。説明の必要はないと思うが、先ほどの作曲家と同じことである。

ただし、ソニーやキヤノン、トヨタ、マイクロソフトのようにパイオニアは尊敬されるべきである。税金を払っていただけるのだから。

私のマネをしたら毎年米国にビジネスクラスで金髪・ブルーアイに会えますよと言っているのではなく、周りの儲かっている生産者に頭を下げて学ぶ姿勢も必要になるのは当然だ。だが、変にプライドが高いバカ親の子はやはり同じ運命をたどる。それだったらまだましだが、経済的自立のできないグループに属するのは誰のためなのか？

これも戦後の農地解放と呼ばれた、もともとそれだけの能力しかない人民を集めて行った極左民主主義農業社会の結果なのだから、貧困の意味を考える暇を作った人達が悪いのであって、個人攻撃して私の責任にされても困る。豊かにならない理由を国家の農政の責任にするのは簡単だが、何十年も同じ場所にいて、同じものを同じ経営面積で作っていたら、どうなるのかは農協職員でなくても簡単に分かりますよね？

将来の豊かさを求めるために何をしたらいいか分かる？

米国の話にもどそう。1年間、真面目にそして日本国農政の優等生の様に真剣に働いたご褒美に、LAの知り合いの家に転がり込み計画も立てず、ぶらりとする予定であった。事前に小型飛行機に2日間乗る計画はあったが、悪天候のため1日間だけの飛行にした。行き先はナパバレーを追い越す勢いのLA南の新興ワイナリーとして繁栄しているフレンチバレーだ。以前は気軽に飛行機を借りることはできたが、やはり9・11テロ以降は飛行会社の生徒やクラブ員以外は教官の資格があるセイフティー・パイロットが同乗することになった。今年は大阪出身でフロリダ州立大学卒の22歳のロン毛でイケメンの教官が対応してくれた。彼が面白いことを言った。「オレは日本人の女が好きだが、変なのが多い」と。LA近郊には多くの大学があり、日本からの留学生も多く学んでいるが、このロン毛の教官曰く「海外に行こうと思う日本人の女は変わり者ばかり」らしい。で、日本に住んでいる女のことはどう思うか聞いてみた。

「1年前に日本に帰ったが、もっと変な女が多いと思った」。この意味は女がどこにいても理解不能な生物と言う意味であって、米国にいる日本女子が変なやつが多いと言う意味ではない。

誤解のないように伝えたいが、このような状況は往々にしてあり得る。日本ではこんなものかと思って米国に行き、日本人と日系の女性を見ると案外、日系の女性の方が**古い日本の価値観**を持っている場面に出会わす。それに慣れて日本に帰ると数年間馴染んだ米国の価値観と違う女性がほとんどなので先ほどの〝変な女〟になるのだ。

ということは、女性も日本男児のことをその様に評価しているのであろうか。幸か不幸か、16歳の時に最初に足を踏み入れた外国・アメリカがLAだったので、30年の付き合いになる日本人や日系人と知り合うことになる。

本音で言っちゃいますが、もし米国に住むことになり、住所を選べるのであれば、LAはやめた方が良い。理由は簡単、米国人がいないからだ。特に都市圏に住む住人の価値観や交通の利便性の意味は日本とかなり違う。日本では高速道路、病院、学校、公園が近くにあるところが不動産の価値が高いのだろうが、LAを含め多くの米国の都市ではその様な便利なところには貧困層しか住んでいない。

多くのコケージャン（白人）は郊外の交通の便は悪いが、敷地の広い場所に住みたがる。それがなんだって？　米国で起っていることは間違いなく日本でも起きる。その例が最近の農業ブームなのか もしれない。米国では農業そのものよりも、農業を何世代にも渡り維持していることに誇りを持つ生産者が多いが、日本では戦後のドサクサで手に入れた農地を「**先祖伝来の……**」なんてこと言う、時制の一致ができない、そして将来の豊かさを求めない生産者が多いと感じることがある。で、あなたは時制の一致ができて、どの様な豊かさを求めていますか？